

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 大阪府教育委員会

1. 事業名称

日本語学習活動活性化支援事業

2. 事業の目的

市町村や民間が運営する日本語学習教室に対して、研修の実施や教材開発、ネットワークづくりなど広域的な施策を通じて、読み書き会話が十分でない人たちも生き生きと暮らし、社会参加していけるようにしていく。

3. 事業内容の概要

府内の日本語教室で活動している日本語学習コーディネーターによる連絡会議を組織し、

- ・学習支援(パートナー)の拡大促進
- ・学習者、学習支援者、行政担当者等の交流促進
- ・教材活用資料の作成

等の活動を行い、地域日本語教室を支援する体制を構築していく。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容	
1	平成24年6月21日 10:00~12:00	2時間	大阪府庁本館5階 第5共用会議室	奥村太一 久住浩一 岡本龍三 鈴木孝彦 津田賢二 山上 清 松田謙二 保元良美 稲田智子 鈴木太(代理・守田)	酒井翔平 浦沢貴行 田中聡 松岡義隆 赤坂明美 山田英章 太田正人 田中隆博 松永敦子 田村幸子 計20名	今年度の日本語学習活動活性化支援事業の内容・企画について	今年度の日本語学習活動活性化支援事業の内容・企画 昨年の交流会の内容を説明し、今年度の交流会の内容・企画について検討 昨年の研修の内容を説明し、今年度の研修の内容、場所等について検討
2	平成24年11月6日 10:00~12:00	2時間	大阪府庁新別館 南館7階 研修室6	久住浩一 岡本龍三 池田哲士 鈴木孝彦 津田賢二 大西達也 中村典寛 鈴木太(代理・守田)	酒井翔平 浦沢貴行 松岡義隆 赤坂明美 田中隆博 松永敦子 田村幸子 計15名	今年度の日本語学習活動活性化支援事業の内容・企画について よみかきこうりゅうかいに向けて	11月20日のよみかきこうりゅうかいに向けて、当日のスケジュール、流れ、役割分担、注意事項など具体的な検討 (当日雨が降ったらどうするかは、今後の懸念材料) これから大阪府内の日本語学習活動を活性化するにはどうすればいいかを検討
3	平成25年2月28日 15:00~17:00	2時間	大阪府庁新別館 南館5階 第1研修室	奥村太一 久住浩一 池田あずさ 池田哲士 津田賢二 大西達也 保元良美(代理・斉藤) 稲田智子	酒井翔平 浦沢貴行 松岡義隆 赤坂明美 山田英章 太田正人 田中隆博 松永敦子 田村幸子 計17名	今年度の日本語学習活動活性化支援事業の内容・企画について 今年度の成果の検証	11月20日のよみかきこうりゅうかいの成果、反省点、来年度に向けての改善方法の検討。各ブロック交流会の進展状況について検討。 各研修の成果、反省点、来年度へ向けての改善方法の検討など

【写真】



5. 取組についての報告

○取組1: 日本語教室における支援者拡大(日本語学習コーディネーター連絡会議の開催)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

大阪府内の日本語教室で活動している日本語学習コーディネーターが日常的に連携し、市町村の担当者とも連携・協働する体制を構築し、地域の日本語教室及び日本語学習を支援する。

(2) 取組内容

地域日本語学習コーディネーターとの日常の連携を進め、府内教室の情報を集約し、学習支援者の拡大、教室の立ち上げ等について支援できる体制づくりについて協議した。またコーディネーターと協議の上、具体的なテーマを設定し、そのテーマに関するキーパーソンが集まる会議を実施した。

(3) 対象者

大阪府内の識字・日本語教室のコーディネーター及び識字・日本語学習関係者

(4) 参加者の募集方法

コーディネーターとして活動している人材の中から適任者を選任した。さらに会議のテーマに応じて、コーディネーターが要請した人材に依頼。

(5) 参加者の総数 25人

(出身・国籍別内訳 日本14人、タイ、ミャンマー、ベトナム各2名、
ブラジル、マレーシア、中国、インドネシア、エジプト各1名)

(6) 開催時間数(回数) 16時間 (全8回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	会議概要	出席者名	
1	平成24年1月30日 14:00~16:00	2時間	HRCビル 教育サロン	5人	日本5人	課題整理	それぞれの組織における活動を共有し、課題点を整理した。	(田中隆博) 田村幸子 輪銅聖子 永井慧子 久保房子	
2	平成24年2月7日 14:00~16:00	2時間	HRCビル 教育サロン	5人	日本5人	課題整理、テーマ設定	前回に引き続き課題を整理するとともに、優先項目を選び、本会議次回以降のテーマ設定と参加者の選定を行った。	(田中隆博) 田村幸子 輪銅聖子 永井慧子 久保房子	
3	平成24年2月13日 14:00~16:00	2時間	大阪市総合 生涯学習セ ンター	5人	マレーシア1人、日本4人	支援者養成研修の企画について(1)	支援者養成研修を4回講座として企画する際の、内容について検討した。	(田中隆博) 田村幸子 輪銅聖子 永井慧子 久保房子	
4	平成24年2月27日 15:00~17:00	2時間	ブラムローズ	9人	タイ1名、ブラジル1名 日本7人	子どもの日本語学習支援について	子ども対象の教室の実態を情報交換し、子どもの日本語学習に関わる課題解決に向けての具体的方策を検討した。	(田中隆博) 田村幸子 松浦 尚美 久保房子 坪内好子	ヴァニア・アラルジ 高瀬 瑛子 菅原 智恵美 WOO WAI SHENG
5	平成24年3月6日 15:00~17:00	2時間	HRCビル 教育サロン	6人	マレーシア1人、日本5人	支援者養成研修の企画について(2)	第3回会議に引き続き、4回講座の具体的なプログラムを検討した。	(田中隆博) 田村幸子 永井慧子 久保房子	新矢麻紀子 WOO WAI SHENG
6	平成24年3月15日 14:00~16:00	2時間	HRCビル 教育サロン	5人	日本5人	ネットワークづくり	おもに学習支援者が活動の意義を理解してつながりを深めていくためのネットワークづくりの方策を検討した。	(田中隆博) 田村幸子 輪銅聖子 久保房子 上井 尚子	
7	平成24年3月18日 19:00~21:00	2時間	エルおおさか	5人	日本5人	識字の学習について	外国人学習者が多く学ぶようになってきた識字教室の活動の今後の方向性と解決しなければならない課題について協議した。	(田中隆博) 田村幸子 菅原 智恵美 吉岡 幸平 高橋 佳代子	
8	平成24年1月30日 14:00~16:00	2時間	エルおおさか	15人	タイ1人、中国2人、インドネ シア1人、ミャンマー2人、ベ トナム2人、エジプト1人、日 本人6人	外国人当事者の現状 について	外国人学習者と関係の深い支援者により、当事者の声をふまえた支援方法のあり方を検討した。	(田中隆博) 田村幸子 輪銅聖子 久保房子 WOO WAI SHENG 伊佐オラス イ ショリウ Thu Zar Kaw	Win Kyaw Kaw ファン ホン ニヤット ファン ガン カー SUGIATITO NAINGGOLAN ムハンマド ムハンマド 山本 千穂 上井 尚子

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

〔会議で出された重要なポイント〕

第3回 支援者養成研修の企画について(1)

- ・社会的役割としての理解
- ・活動の中で学ぶ姿勢
- ・全体像が明確な講座づくり

第4回 子どもの日本語学習支援について

- ・親の課題を認識する
- ・日本語が話せていればそれでいいという誤解
- ・居場所としての教室

第6回 ネットワークづくり

- ・運営者の意識がバラバラである
- ・定期的な教室現況調査
- ・キースポットやキーパーソンへの働きかけ

(9) 取組の目標の達成状況・成果

日常的な連携の上に、今年度の活動を踏まえ、コーディネーターでテーマを設定し、それぞれのキーパーソンとともに協議することにより、今後重点的に推進していくポイントとその方向性を確認し、具体的方策についても検討することができた。

(10) 改善点について

来年度は年度当初より、固定のメンバーで定期的開催し、府内の教室運営、学習支援の中心的役割はたせるように位置づけていく。

○取組2:日本語教室における学習者、支援者等の交流

(よみかきこうりゅうかい(府内全体を対象とした交流会、ブロック別の交流会))

(1) 体制整備に向けた取組の目標

[全体の交流会]

府内の識字・日本語教室の学習者、支援者が一堂に会し、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を通して、日常の活動の活性化につなぐ。

[ブロック別の交流会]

地域ごとの交流会を市町村の行政担当者が中心となって企画・運営していくことによって、ブロックレベルで市町村行政及び地域の各教室どうしが日常的に連携できる体制を確立する。

(2) 取組内容

[全体の交流会]

関係する団体の代表による実行委員会を組織し、コンセプト作りから具体的運営方法まで協議しながら進めた。

当日は、午前中に全体会を行い、各教室での取り組み等を紹介し、学習の成果や学びへの思いをリレートークの形で発表し、意見交流を行った。

午後は11の分散会に分かれ、作文発表、アピール、仲間づくり、文化交流など参加者どうしが直にふれあい、語り合った。

[ブロック別の交流会]

ブロックの行政担当者や教室運営者によって、ブロックの実情に応じた交流会を検討した。

学習者の交流を中心にしたもの、支援者のスキルアップや協働体制を進めるものなど、交流の目的や形はさまざまである。

(3) 対象者

日本語教室等の学習者、支援者、教室運営者、行政担当者、その他日本語学習関係者

(4) 参加者の募集方法

[全体の交流会]

チラシ及び要項を紙ベースで作成し、市町村を通じて府内のすべての教室に配付した。

[ブロック別の交流会]

チラシ及び要項を紙ベースで作成し、市町村を通じて各ブロック内のすべての教室に配付した。また各市町村の広報等にも掲載した。

(5) 参加者の総数

[全体の交流会]

450人

(出身・国籍 アフガニスタン、タイ、韓国、中国、ブラジル等 内訳不明)

[ブロック別の交流会]

南河内ブロック 50 人
 豊能ブロック 58 人
 北河内ブロック 233 人
 三島ブロック 41 人
 泉南ブロック 29 人
 堺・泉北ブロック 118 人
 大阪市内ブロック 43 人

(出身・国籍別内訳 不明)

(6) 開催時間数(回数) 23.5 時間 (全 8 回)

[全体の交流会]

5 時間(1 回)

[ブロック別の交流会]

3 時間~5 時間(7 ブロック各 1 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者
1	平成24年11月20日 10:30~15:00	4.5時間	大阪府立教育センター	450人	118人(国籍不明)	大阪府内の識字・日本語関係者の交流	学習者・支援者・行政関係者の交流 教室紹介、俳句づくり、ものづくり、作文発表、歌や踊りなど	1	池内 正枝	2	岩村 友子 西川 秀江
2	平成25年1月19日 14:00~16:00	2時間	ゆめニティプラザ	50人	不明	南河内ブロックの識字・日本語関係者の交流	学習者・支援者・行政関係者の交流 自己紹介・絵手紙づくりなど	1	関戸 しげみ	—	—
3	平成25年1月26日 9:30~12:00	2.5時間	豊中市立中央公民館	58人	5人(国籍不明)	豊能ブロックの識字・日本語関係者の交流	学習者・支援者・行政関係者の交流 名刺作り、名刺交換、教室の実践紹介など	—	—	28	フレディ・サンタマリア 沼本モリ子 張慶子 竹林久美 高野口正子 山口喜美子 内海昭男 高英花 飯田和清 宮崎八重子 岩下昌史 栗藤華 渡辺敦子 井上ますえ 飛崎光代 久瀬裕子 大川悦生 岩本均 新井智成 肥野三枝 水島種子 横平達子 半田あきこ 清水浩平 神谷敦子 ラディ・ヒロフ 堂和永 ギンティンマルビン
4	平成25年1月27日 14:00~16:30	2.5時間	守口市生涯学習情報センター	233人	不明	北河内ブロックの識字・日本語関係者の交流	学習者・支援者・行政関係者のゲームや舞踊などを通じての交流	—	—	—	—
5	平成25年2月16日 14:00~16:30	2.5時間	摂津市コミュニティプラザ	41人	不明	三島ブロックの識字・日本語関係者の交流	三島ブロック各市の支援者、行政関係者の交流、講義	1	菅原 智恵美	1	小倉 眞佐子
6	平成25年2月24日 11:30~15:30	4.5時間	泉大津市立南公民館	118人	不明	堺・泉北ブロックの識字・日本語関係者の交流	学習者・支援者・行政関係者の交流 教室紹介、書道体験、作文発表、踊りなど	2	平田 園子 本田ますみ	—	—
7	平成25年2月24日 14:00~16:30	2.5時間	貝塚市立中央公民館	29人	不明	泉南ブロックの識字・日本語関係者の交流	泉南ブロック各市の支援者、行政関係者の交流、講義	1	石橋 由紀子	—	—
8	平成25年3月9日 18:30~21:00	2.5時間	大阪府立総合生涯学習センター	43人	不明	大阪市内の識字・日本語教室のコーディネーターまたは教室運営者の交流	子どもの日本語学習支援、まちづくりと識字・日本語教室、困難を抱える若年者のリテラシーなどをテーマに、ディスカッション	—	—	—	—

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

[全体の交流会]

全体会「リレートーク」

「もしも識字・日本語教室がなかったら。識字・日本語教室があったから。」などをテーマに、さまざまな立場の学習者が学びへの思いをリレー形式で語っていく取組み。

* 参加者アンケートより

リレートークはどうでしたか

回答者 225 名 [よかった:200 ふつう:1 よくなかった:4 その他:2 無回答 18]

感想

- ・それぞれの方の元気な前向きな生き方を感じ、元気をいただきました。
- ・学習者が主体となり自分たちの思いを語る方法はすごくよかったと思う。
- ・ことばのよみかきができないということが、生きる上において切実な問題になっているということを改めて考えさせられる機会になりました。

[ブロック別の交流会]

北河内識字・日本語交流会

参加者

233 人(内訳 学習者 130 人 学習支援者 78 人 行政等担当者 25 人)

プログラム

歓迎の挨拶

歓迎の舞踊 … 「よさこいソーラン」

各市よりパフォーマンス … 各市 6 分間で舞台発表

ゲームタイム … 全員参加のゲーム

交流タイム … 国別等(13 班)に分かれて、グループ討議

みんなで歌おう … 全員で合唱

閉会の挨拶



(9) 取組の目標の達成状況・成果

[全体の交流会]

府内の日本語学習関係者が一堂に会する年に1度の機会として、日ごろのそれぞれの活動を共有し、その成果や意義を再確認し合い、今後の活動へのエネルギーとなった。

[ブロック別の交流会]

地域の日本語教室等の活動をブロックレベルでつながり、協働していける体制を作っていくための交流の場となった。

(10) 改善点について

[全体の交流会]

参加教室にやや地域の偏りがあるので、府内全域の教室からの参加者が得られるように、スケジュール、プログラム、広報等の工夫が必要である。

[ブロック別の交流会]

ブロックのそれぞれの実情に合わせた取組みではあるが、それぞれの工夫や優れた取組みについての情報交換をすることにより、交流の内容を高めていく。

○取組3: 学生による体験ボランティアの実施及びビギナー養成(日本語学習支援者養成研修)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

学習者の増加とニーズの多様化に対応できる学習支援者の確保に苦慮している教室が多いことから、日本語学習ボランティアを希望する人とボランティアを必要とする教室をつなぐ取組を行う。

(2) 取組内容

ビギナー対象の学習指導者養成研修を、外国人住民が比較的少なく教室数も少ない中南部地域で開催し、修了者に活動場所を案内するところまでを含めたプログラムとして実施した。

また、府内の大学生に地域の日本語教室での体験ボランティアの活動ができる機会を作ったり、交流会の開催にあたって府内の高等学校の自主活動サークル等にも案内したりした。

(3) 対象者

日本語学習ボランティアに関心のある府民

(4) 参加者の募集方法

府のホームページや開催地域の市町村の広報に掲載。また開催地域の各教室にも案内した。

(5) 参加者の総数 30 人

(出身・国籍別内訳 不明)

(6) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 4 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講人数	国籍 (人数)	取組のテーマ	授業概要	講師 又は 指導 者数	講師又は指 導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年11月12日 19:00~21:00	2時間	府庁新別館 北館4階職員 会議室7	2人	不明	学生による日本語教室体験ボランティアの事前講習	日本語教室で学習支援者として実際に活動されている方から、日本語教室の現状や心構え、日本語学習の支援方法などを説明	2	森 尚 大井真喜子	—	—	使用教材 実際に日本語教室で使用している教材数種類
2	平成24年10月27日 13:30~16:30	3時間	富田林市消 防署4階大講 堂	23人	不明	初心者のための日本語学習のボランティア研修	今の日本語教室に求められること	1	安田 乙世	—	—	使用教材 講師独自のもの
3	平成24年10月27日 13:30~16:30	3時間	河内長野市 立市民交流 センター	23人	不明	初心者のための日本語学習のボランティア研修	日本語習得支援(1)	1	新庄あいみ	—	—	使用教材 講師独自のもの
4	平成24年10月27日 13:30~16:30	3時間	富田林市消 防署4階大講 堂	20人	不明	初心者のための日本語学習のボランティア研修	日本語習得支援(2)	1	御子神慶子	—	—	使用教材 講師独自のもの
5	平成24年10月27日 13:30~16:30	3時間	羽曳野市役 所別館2階 研修室1~3	19人	不明	初心者のための日本語学習のボランティア研修	市民による日本語習得支援	1	西口光一	—	—	使用教材名 NEJ:指導参考 書「A New Approach to Elementary Japanese <vol.1, 2 >」新装版 基礎日本語文法教 本 英語版

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

研修受講者「コミュニケーションシート」より

第1回「今の日本語教室に求められていること」

- 「私達の使っている日本語は日本語ではない。」といわれ、改めて日本語というものを勉強したいと思った。日本語を教えるだけでなく、結局は地域で暮らしていくためのコミュニケーションがとれるように援助が必要だと思った。
- 学習者とボランティアがコミュニケーションを通じ、共に成長していく。ボランティアは心理的・精神的な支えとなり、参加するだけで役に立っている。よりそっている。私でも少しは役に立てるのかな、と思い、励みになりました。

第2回「日本語習得支援(1)」

- 言葉を学ぶ側に立った講座で、とても勉強になりました。教える側としては、どうしても順序立てて「概論から」とか「文法から」とか「テキストの始めから」に拘ってしまいます。シンプルに、学習者の知りたい事、必要な事から勉強して行くのが合理的で効率的だと思いました。
- 日本語を、当たり前状態で生活していますが、客観的にみても、何とあまいな感覚で生活しているのかと実感。細かいことまでみていったら、自国の言葉が不思議…生活を共有しているのはすごい！！

第3回「日本語習得支援(2)」

- 今日は文型、文法的な日本語学習を教えていただいて、いろいろ多岐に渡って、いろんな場面があることを知りました。普段使っている日本語を説明するのに、こんなに考えることがあるのだと認識しました。絵や写真、図入りの本の紹介等わかりやすかったです。実際の教室の画像、VTRなどがあればありがたいです。
- 普段、何げなく使っている日本語が、外国の人にとってはわかりにくいものだと思います。わかりやすく話すポイント、勉強になりました。「わかる？」と聞くより「わかりますか」と聞く方が相手には理解しやすいというのは発見でした。話のキッカケにも日常的なもの、洋服や持ち物から入っていく、というもなるほど という感じでした。

第4回「市民による日本語習得支援」

- とても興味深く楽しく受講をさせていただきました。きっとやる気満々で皆さん参加されていると思いますので具体的に募集というか活動先を案内して下さったりするのを期待されていらっしゃると思いますので、講義を受けた後のアフターフォローももう少し考えられるとよかったですかなと思います。せっかく4回も受講したのですから受けっぱなしはもったいないです。ありがとうございました。
- 大学の講義を受けているようでした。久しぶりに学生に戻った気分で学習させていただきました。後半は作業が入ったので楽しく勉強できました。これで研修は終わってしまいましたが、まだ不安な気持ちを抱えつつボランティアをしたいと思います。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

日本語教室の活動についてまったくの初心者である参加者に対して、地域の日本語学習活動の意義や教室の位置づけなどについての理解を中心に講座を進めるとともに、教室見学会なども併せて開催することにより、受講者の活動への意欲を高めることができた。把握している範囲でも、受講者の約3割は具体的な活動を始めた。

(10) 改善点について

地域によって教室活動の状況に違いがあるため、講座を受講した方が活動を希望しても受け入れ教室がない場合もあり、ブロックレベルでの学習支援者の必要状況などを集約し、受講者が具体的な活動に入っていくようにしていく必要がある。

○取組4:日本語パートナーシップ ブラッシュアップ研修

(1) 体制整備に向けた取組の目標

すでに日本語教室等で活動している学習支援者が、活動中での悩みや課題と感じていることなどを共有し、それらの解決に向けて、講師の助言を受けながら、ともに考え、学びの場づくりに参画する視点とスキルを身につける。

(2) 取組内容

参加者がそれぞれの活動経験を共有しながら、本当に必要な支援とはどういうものかを、課題、原因、解決方法をディスカッションし、さまざまな失敗から教室活動を改善していく方法について考えた。

(3) 対象者

現在、日本語教室ですでに活動している学習ボランティア

(4) 参加者の募集方法

大阪市と協働し、生涯学習情報誌に掲載。自治体ホームページ、広報チラシを活用して広く募集。府内すべての各教室にもチラシを配付。また日本語学習支援者養成研修(ビギナー研修)受講者にも案内した。

(5) 参加者の総数 55人

(出身・国籍別内訳 不明)

(6) 開催時間数(回数) 8時間 (全4回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成25年2月2日 10:00~12:00	2時間	大阪市総合 生涯学習セ ンター	32人	不明	識字・日本語学習ポ ランティアをやっている方 のスキルアップを図る	他の教室の学習内容や参考にできる事などを参加 者どうしの交流とともに、大阪市教育委員会の教室 体系や識字・日本語教室へのサポート体制について 学びました。	1	田中聡	—	—	使用教材 講師独自のもの
2	平成25年2月9日 10:00~12:00	2時間	大阪市総合 生涯学習セ ンター	36人	不明	識字・日本語学習ポ ランティアをやっている方 のスキルアップを図る	日本語学習を通じて、本当に必要な支援を教室活動 を通じて、言葉の支援だけでなく、どのような支援が 必要なかを一緒に考えました。グループに分かれ てそれぞれが考えたことを発表。	1	新矢麻紀子	—	—	使用教材 講師独自のもの
3	平成25年2月16日 10:00~12:00	2時間	大阪市総合 生涯学習セ ンター	25人	不明	識字・日本語学習ポ ランティアをやっている方 のスキルアップを図る	識字・日本語教室には子どもの日本語学習者や若 者で生きづらさを感じている学習者等、様々な学習 者が参加しています。一緒に学習を進めていくた めに必要な事を一緒に考えました。グループに分かれ てそれぞれが考えたことを発表。	1	坪内好子	1	菅原智恵美	使用教材 講師独自のもの
4	平成25年2月23日 10:00~12:00	2時間	大阪市総合 生涯学習セ ンター	27人	不明	識字・日本語学習ポ ランティアをやっている方 のスキルアップを図る	教室を参加者みんなで楽しく作っていくために、学習 者もボランティアも一人ひとりが活躍できる教室作り について一緒に考えました。グループに分かれてそ れぞれが考えたことを発表。	1	石橋由紀子	1	住友喜美代	使用教材 講師独自のもの

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

講師には事前にただ聞くだけの講義ではなく、一緒に考える時間をもってもらうように依頼。
毎回、違うグループ分けをして参加者同士がテーマについて考える時間をもった。

〔第3回〕

地域の識字・日本語学習には、様々な背景をもった学習者がいる。最近、とくに若年者・子どもの学習者が増えている。学習をすすめるために、外国にルーツを持つ子どもたちについて、情報を共有することが大切である。来日背景(複雑な保護者の事情)・言語環境(母語+日本語+英語等、複数の言語環境)などさまざまである。また、生活言語と学校で使う言語の違いや学校文化の違いもある。さまざまな支援方法について参加者と一緒に考えた。

〔第4回〕

実際に地域の識字・日本語教室での学習や活動報告の後、教室運営を充実させる方法について、グループに分かれて検討した結果をそれぞれ発表。

ある程度話せる学習者に、発音が間違っていることを指摘したら二度と来なくなったという失敗談から、間違いを指摘するタイミングが難しい、必ず来なければいけないという義務感ではボランティアは続けられないといった意見など、様々な意見が出た。

〔参加者の声(抜粋)〕

- ・グループでの話し合いが大変有意義でした。
- ・日本語交流なのか？日本語の習得を支援するのを優先すべきなのか？考えさせられました。
- ・“問題⇒課題⇒解決”この流れは持って帰って使える。
- ・子どもたちを相手にしている教室や日本人相手の識字教室は経験がありませんのでこんな教室があるのかと思いました。
- ・知らない現状が多く驚いた(私自身がこれまでの活動の中ではかかわりがなかった)。何かお役に立てないかと感じた。

・時間が足りない。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

日ごろ漠然と困難だと感じている点について、課題として明確化し、その原因を考え、それを解決していく具体的方法を協議するというプロセスの体験に、今後の活動への示唆を得た参加者が多かった。またディスカッション中心の研修を通して、学習支援者どうしのネットワークづくりも進んだ。

(10) 改善点について

受講者の学びや、受講者どうしのつながりがを受講後も引き続き高まり深まっていくような取り組みについて検討していく必要がある。

○取組5:学習の目的に合わせた教材選択のための資料作成(教材リスト作成会議)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

多様化する学習者に対応し、効果的な学習者への支援を行うために、一般に入手可能な教材を選択できるような資料の作成を行う。

(2) 取組内容

日本語学習コーディネーターの活動の一つとして、市販されている教材を、使用対象者や目的に応じて分類し、それぞれに簡単な解題を付して、学習支援者が日常の学習活動に使用できるようコンパクトな冊子にまとめた。

(3) 対象者

日本語学習コーディネーターの中の教材に精通したメンバーで教材部会として活動。

(4) 参加者の募集方法

日本語学習コーディネーターの中の教材に精通したメンバーに依頼。

(5) 参加者の総数 5 人

(出身・国籍別内訳 不明)

(6) 開催時間数(回数) 8 時間 (全 10 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	会議概要	出席者名
1	平成24年6月21日 15:00~17:00	2時間	大阪府庁別館8階 分室	5人	—	教材リスト作成	テーマ・内容の検討、大まかな役割分担やボリュームの検討	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子 永井慧子
2	平成24年7月6日 12:00~12:30	0.5時間	大阪府庁新別館北館4階職員会議室7	4人	—	教材リスト作成	各テーマ内容の詳細についての検討 役割分担	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子
3	平成24年11月6日 12:00~12:30	0.5時間	大阪府庁新別館南館7階研修室6	4人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子
4	平成24年12月5日 14:00~14:30	0.5時間	大阪府庁別館8階 分室	4人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整	田中隆博 松永敦子 田村幸子 永井慧子
5	平成24年12月20日 12:00~12:30	0.5時間	大阪府庁新別館南館7階研修室6	5人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子 永井慧子
6	平成24年1月30日 16:00~16:30	0.5時間	HRCEビル教育サロン	5人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整・成果の活用方法について 検討	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子 永井慧子
7	平成24年2月7日 16:00~16:30	0.5時間	HRCEビル教育サロン	5人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整・成果の活用方法について 検討	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子 永井慧子
8	平成24年2月13日 16:00~16:30	0.5時間	大阪市総合生涯学習センター	5人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整	田中隆博 太田正人 松永敦子 田村幸子 永井慧子
9	平成25年2月28日 17:00~17:30	0.5時間	大阪府庁新別館南館5階第1研修室	3人	—	教材リスト作成	進捗状況確認・内容調整	田中隆博 松永敦子 田村幸子
10	平成25年3月6日 17:00~19:00	2時間	HRCEビル	3人	—	教材リスト作成	最終チェック	(田中隆博) 田村幸子 永井慧子

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

〔第1回〕

現在、日本語学習についての教材は様々な種類のものが発行されているが、その中から学習者の日本語習得状況やニーズに応じた教材を選ぶのは大変だという声が以前からあった。そのため、地域の識字・日本語教室で使用することを前提として使いやすい教材をそれぞれのテーマに沿って選ぶこととした。テーマを選び、効率を高めるためにテーマごとに役割分担することとした。

〔第6回〕

テーマごとに進捗状況が違うものの、ほぼ固まってきたなかで、このリストの活用方法について意見が出た。当初は、リストをコピーして各教室へ配布し、またHPで公開することとしたが、各教室には2部あった方が使いやすい、またコピーよりは印刷した方が保管しやすいなどの意見があり、印刷について検討。

〔第10回〕

原稿ができあがったので、全員で内容について確認を行った。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

教材の選定に苦勞している学習支援者にとって、学習者のレベルや学習目的に応じ

て整理されたガイドとして使い易いものとなっている。府内のすべての教室に配付する。

(10) 改善点について

今後随時情報を整理し、内容の改定を加えていく必要がある。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

市町村や民間が運営する日本語学習教室に対して、研修の実施や教材開発、ネットワークづくりなど広域的な施策を通じて、読み書き会話が十分でない人たちも生き生きと暮らし、社会参加していけるようにしていく。

(2) 事業目的の達成状況

必ずしも日本語の専門家でも、対人援助の専門家でもない学習支援者が活動する日本語教室の運営を支援するために、学習支援者の拡大と連携体制づくりを念頭に置きながら事業を行った。

活動のリーダーとなるコーディネーターの位置づけの明確化、ブラッシュアップ研修による学習支援者のスキルと意識の向上、ブロック交流会のブロックによる主体的な企画・運営など、現場の活動者がつながって活動を高めていく機運が醸成されてきた。

(3) 地域における事業の効果、成果

ブロック活動の活性化により、学習者や学習支援者が市町村の枠組みを越えて活動できるようになっている。また行政担当者も、各市町村の課題をブロックの課題として捉え、ブロックで協力して解決していこうという方向でつながるようになってきた。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

学習者のニーズの多様化などを受けて、地域日本語教室の役割はさらに高まっているが、自治体における財政状況の悪化などによる事業の効率化等の影響を受け、学習活動場所がなくなっていくなど、活動環境としてはマイナス要素が多いのが現状である。

ii 今後の課題

一方で、社会の役に立ちたいと、学習支援活動への参加を希望する人が多くおり、その意欲が強いことが、支援者養成研修などを通じてわかってきた。

そのような意欲ある方が日本語教室の意義を正しく理解でき、さらに意欲を高める研修を行い、スムーズに実際の活動につなげ、さらに活動の中でスキルを磨いていけるような教室活動の質的向上を図ることが求められている。

iii 今後の活動予定

広域行政として、コーディネーターを中心に教室運営者、学習支援者、市町村担当者のつながりを深め、主体的活動を促進していける仕掛けづくりを進めていく。